

四季を詠む

両山短歌会 三月詠草

五十年「徹子の部屋」が続くのも豊富な知識明るき笑い
四川省九寨溝の水清く映像見ては心洗わる

剣持 政子

屋根雪の塊落つる危険度にこそそろそろ塗装の合図と知らぬ
背に聞くミサイル報道に胸痛む平和いつまで ネギの皮剥く

鈴木スミ子

春となり旅行案内眺めるも八十路過ぎればとぎめきもなく
春弥生河津桜と菜の花の一面開花今懐かしく

高橋 和枝

アクリルで描きし子らの幼き日仕草愛らし筆なめらかに
夕べより雪が積もりしふんわりと陽のやわらかに雪の華咲く

坂井 亮子

冬の町セキレイ一羽歩道におり飛んで羽はたく波動の如く
夕焼けに紅く輝く大源太スキー帰りの客を見下ろす

高波 大吾

店員がそばに居るのに注文はタブレットから吾はとまどいこ
時くれば消えて無くなる大雪に家を守りて除雪に励む

笛田加代子

ケアハウスゆざわ 短歌

「はいはい」と返事しながら受話器とる知らぬ声なり雪降りやまず 関ムツ

久方に銀嶺仰ぐ夕暮やカラスの群れも夕陽の中に 彩

年老いて忘れる事の多かりき二度読む本も又楽しけり 西瀉シゲノ

句会 紅山桜

さくら 当季雑詠

紅山桜白き山にぞ輝けり
人皆よし紅山桜なほよし

美玲

紅山の桜五分咲き句会止む

さくら咲く里の真中をゆたゆたと

音希

車イスしだれ桜が肩にふれ

紅山の桜の色の艶の濃さ

花

県境の峰鮮やかや冬茜

逝く時は紅山桜手土産に

津

漣のままに花屑たゆたへり

たれに褒めらるるでもなく山桜

美奈子

カランコエピンクの小花春を呼ぶ

公園の紅山桜らんまんに

葉子

ケアハウスゆざわ 俳句

閉店の噂ちらほら春寒し 関ムツ

春浅し衣は何れか迷つ朝 彩

我を待つ如くまんざく顔出しぬ 西瀉シゲノ

窓の外まだ来ぬ春を待ち望み みちよ

「句会 紅山桜」は今月号の掲載をもって最終回となります。

「句会 紅山桜」は、湯沢町へ移住された俳句が好きな方々によって平成15年4月に発足しました。会員の皆さんは、季節を決めた季題、その季節なら自由に使える雑詠の二句を毎月発表し、湯沢の四季の魅力を表現することを楽しみに活動されてきました。

公民館報「ゆきぐに」にて掲載されていた当時から20年以上にわたり、その季節の情景や日常を描いた俳句など、さまざまな題材で数々の心温まる作品を届けてくださいました。長きにわたり多くの作品を寄せていただき、誠にありがとうございました。

広報担当

【訂正のお知らせ】

広報ゆざわ2月22日号19ページの「四季を詠む」において作者名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

句会 紅山桜 冬霞 当季雑詠

(誤) 雪国や熊の剥製飾りをり 音希

(正) 雪国や熊の剥製飾りをり 美玲
冬霞ちよっぴり鬱になりそう